

# 入野小学校 校長室だより

2014. 12. 5(金) No. 29 文責：芝

## 寒い日・校内マラソン大会

皆さんが最初にオリンピックに興味をもった・意識したのは「何」オリンピックですか？

私は1964(昭和39)年の東京オリンピックです。その年だったのか、その前の年かは忘れましたが、三波春男さんの「東京五輪音頭」を運動会で踊った記憶が残っています。踊りは忘れても「オリンピックの顔と顔 ソレト トントント顔と顔」というフレーズは、今でも「東京オリンピック」と聞くと連動して耳に響くような気がします。

2日(火)は校内マラソン大会でした。開会式の話でふれたのが君原健二さん(メキシコシティーオリンピック：マラソン銀メダル)の言葉です。

「私は苦しくなると、よくやめたくなるんです。そんなとき、あの街角まで、あの電柱まで、あと100mだけ走ろう、そう自分に言い聞かせながら走るんです。」

子どもたちはそれぞれに目標をもって校内マラソン大会に挑んだことでしょう。苦しい時もあったはずですが、「もう少し頑張ってみよう」、そんな気持ちを後の達成感とともに経験する機会になってくれたらと願っていましたが、どうだったでしょうか。ゴールする子どもたちの表情を見ていますと、「一人ひとりが、それぞれに熱い頑張りを見せてくれた」、そう感じたマラソン大会でした。

とても寒い日でしたが、応援に来て下さった皆さん、本当にありがとうございました。HPには「声援でゴール付近の気温が上がったような…」と書きましたが、まさにそんな

暖かさをいただきました。心より感謝いたします。ありがとうございました。



上の写真はマラソン大会で見つけた子どもたちの様子。中央にいる子は「おしくらまんじゅう」をしています。「おしくらまんじゅうおされて泣くな おしくらまんじゅうおされて泣くな…」、久しぶりに聞きました。なつかしかったです。

ところで、先の君原健二さんの言葉、いいと思いませんか。私は好きです。先に長く続く苦しさは耐えにくいもの。それを小さな目標に換えていくというのは、生き方のヒントにもなるように思います。

## 良い話ではないけれど…

残念ですが、良い話ではありません。

多目的トイレを「当分の間、使うのを遠慮してください」としました。中での「いたずら」が続いているからです。これまでは学級で話してもらっていましたが無くなりません。しかたがないので、臨時の朝会を行い、「これまでは使いながら考えてもらったけど、今回は使わない期間を設けて考えよう」と、子どもたちに話しました。

子どもたちは通常の「低・中・高のトイレ」だけの使用になります。「遠慮」ですから全く使わないということではないのですが、本当に残念なことです。この出来事が次の良いニュースのもとになるようにと願っています。